

梅雨の季節になりました。昨年の関東甲信の梅雨入りは、平年に比べてかなり遅い6月21日頃でした。そのうえ、市内では雨が降った日が少なかった影響もあってか、この季節の代表で、山野で見られるアジサイの仲間の開花も少し遅れた印象です。その中で、白から薄紫色の美しい花と格別な香りを持つコアジサイは、湿度が高い森林では特に香りがふくよかに感じられる、正に、この季節を体感できる花だと思います。他にも、ホタルブクロやギンリョウソウ、梅雨の終盤にはヤマユリやイワタバコなどの季節の花が咲き始めます。また、多くの野生動物の食物となるキイチゴやサクラ、クワなどの果実も実り、森は一気に賑やかになります。

一方、ちょうどこの頃咲き始める花の中に、年々見る機会が減っている植物があります。それはキツリフネです。キツリフネは、ツリフネソウの仲間、山地の湿った林内に生える黄色い花です。花の形が、茶室などで使われる釣舟花入に似ているのでキツリフネと名前がつけました。以前は、群生して咲いている場所もありましたが、ここ数年群生して咲く姿が見られなくなりました。その大きな要因は、シカやカモシカなどの草食動物による採食圧です。特にシカは、市内で痕跡を確認しない森林がないほど分布が拡大しており、個体数が増加しました。



花も葉も特徴的な形のキツリフネ

国は、シカによる生態系や農林業などへの被害を防ぐための対策として捕獲を行っており、個体数は2014年をピークに減少傾向にあるなど成果が出ているようですが、今後更に対策を強化していくようです。また、伐採後の植林地や希少植物の自生地などがある山林においてシカ侵入防護柵の設置も行われています。

市内でも、シカなどが好んで採食することで数が減っているキツリフネなどの種を防護柵内で確認するので、対策の重要性を実感します。反面、柵外はシカなどの忌避植物が目立つため、その影響力の大きさも実感します。

東京都では、絶滅危惧種に指定されていない普通種のキツリフネですが、見かけることが少なくなっていますので、幸運にも出会えたらぜひそっと見守ってください。
(加瀬澤)